



岩下 榮子

## 21年度から新出発する能勢町立のせ保育所について

**問** 21年度から新出発する能勢町立のせ保育所の運営、保育所指針等について、今、決定していることを聞かせてほしい。

**答** 平成19年3月に、統合についての方向性を示して以来、保護者や、次世代育成支援対策協議会での意見を踏まえ、具体的に検討してきた。内容的には3点ある。

1 点目は、現在、3歳児以上は米飯持参としているが、すべての保育所で対応する完全給食を行っていく。

2 点目は、延長保育を午前7時半から午後7時までとしているが、受け入れを30分延長して午前7時からとする。

3 点目は、延長保育の料金を、現行1回の利用であったも月3千円としているのを、1回2百円上限を月3千円として、より利用しやすい形態に改正していく。

今後とも安全な保育の

実施や保育内容の充実に努めていく。

**問** 保育所の職員の体制や保育ビジョンについては、

**答** 正職が全部担任としては、嘱託やパートが、またフォローという形をとるので、保育の充実ができる。

**問** 保育士の研修会はどのようなものか。

**答** 国の動きとして保育指針の見直しが行われており、その研修を受け、それを持ち帰り内部で協議している。

**問** その内容の検討に、福祉課の方からもメンバーに加わっているのか。

**答** 研修内容を教えてもらって、福祉課としての取り組みを考えていく。

**問** 保育所に昨年度から男性所長が任命されたが、

**答** 専任で所長が入ってきたというところで、子どもたちも活発になり、いい環境になってきた。

**問** 議会に保育所の行事

などの案内をいただけるか。

**答** 地元の小学校長には、行事案内を行っていたが、今後、議会にもお知らせ的なものは、取り組んでいきたい。

**問** 地域に密着した子どもたちが、保育士が、誇りを持てるような保育所、子どもを真ん中にすえて、真剣に考えたとき、すべてのことがよい方向に向かうのではないかと思うのだが。

**答** 色々な状況の中で、能勢町の保育所を一本化し、将来、地域を背負って立つてくれる子どもを育成し、保育するのに、充実した保育所として出発できるような関係者一同新しい運営に向かって進んでいく決意をしている。



## 一般質問



山本 光晴

## 一、地上デジタル放送移行について町の対応 二、林業会館の活用についての提言

**問** 2011年からテレビ放送がアナログからデジタル放送に切り替わることになるが、難視聴地域である能勢町においては、現在のアナログにおいては、

日本放送協会によると、3月までに基地局を設置し、受信状態を調べることとしているが、能勢町全体が完全に受信できるか疑問がある。関電の系列であるケーブル会社による光ネットが能勢町における普及率が40%程度あると聞いている。この会社と連携し、安価なテレビ受信対策をすることによって住民に喜ばれ、事業会社にとってもテレビ以外の電話やインターネット事業などメリットのあることと思うし、

共聴組合においても維持管理の問題の解決にもつながると思う。  
光ネットのつながっていない杉原地区と天王地

区については地域イントラで整備したケーブルが地域の公共施設にあるので利用が可能と思う。検討の考えはあるか。

**答** 日本放送協会の受信点調査の経過を待つことと、共聴組合の意向を踏まえて対応をしていく。

**問** 浄るりシアターに隣接する林業会館が町に無償譲渡されることが決定し、図書室の機能の充実が図られると聞いている。この際、図書館へ昇格し、住民の生涯教育などの拡

充と住民と一体となった運営が必要と考える。教育委員会の考えをうかがう。

**答** 1階を図書室としてより利用しやすい図書環境を整えていく。2階は生涯学習やサークル活動の支援を通じて、地域の方々の交流を進め、地域の活性化につながる場としての利用を図る。社会教育委員会の中で住民からの要望、提言を受け止めて議論をしていきたい。

